

ちがいを豊かさに ～住みよいまちをめざして～

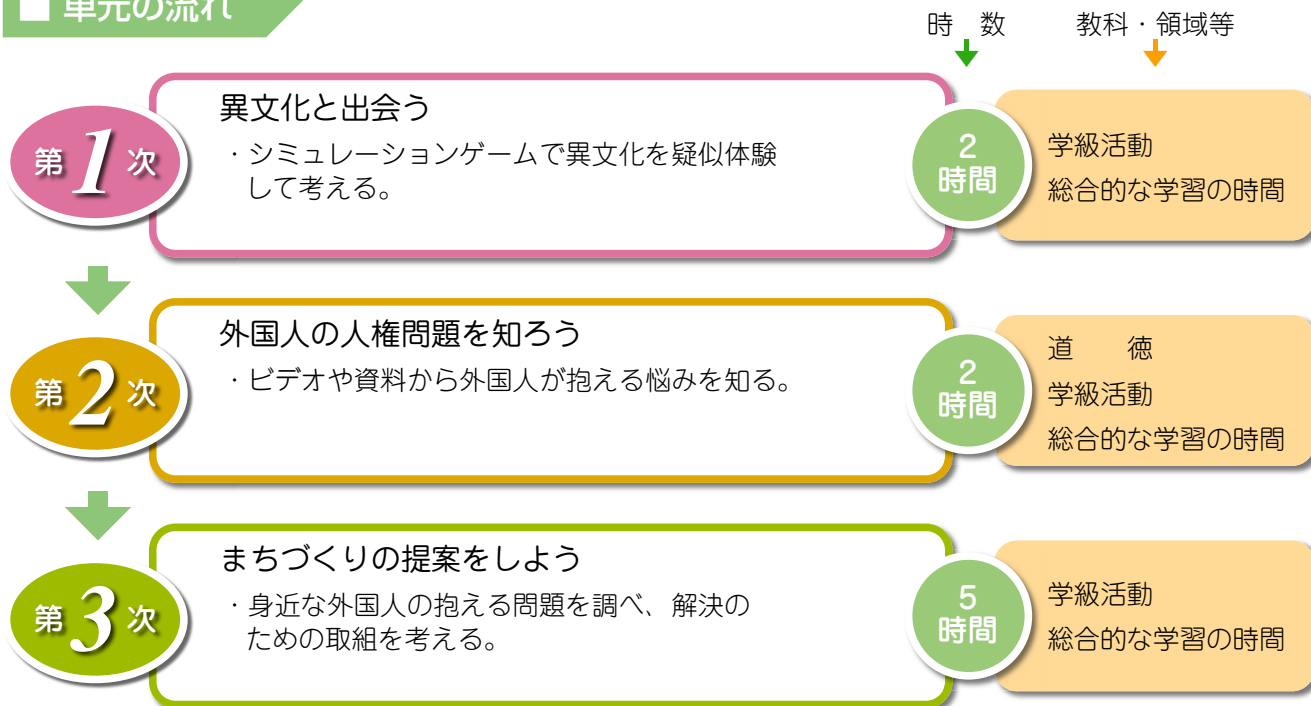
外国人の人権

単元の目標

- 1 社会に存在する人権問題について科学的な認識を深め、人権基準等に照らして多くの仲間と共に解決に向けて取り組もうとする。
(2-⑦具体的な人権課題)
- 2 一人一人の価値観や行動様式等を尊重するとともに、異文化の理解に努め、共に高め合おうとする。
(3-⑧多様性・多文化共生)
- 3 社会の一員としての自覚を持ち、よりよい学校や地域をつくるために積極的に意志決定に参加・参画し、多くの仲間と共に行動しようとする。
(3-⑩参加・参画)



単元の流れ



第1次

異文化と出会う

目 標

- 言葉が通じないことやルールの違いから生じる不安に気づく。(単元目標2)

準 備 物

- ・資料①「人権クイズ」(『対話ですすめる人権学習』P76・P77)
- ・資料②「基本ルール、すすめ方」
- ・資料③「グループ別の異なるルール例」
- ・ワークシート①「“バーンガ”を体験して」 ・ピクトグラム ・トランプカード

展 開 【1】

学 習 活 動

1

資料①「人権クイズ」を行う。

2

ピクトグラムを見て、何を表しているか考える。

発 問：この図は何を表していると思いますか。
(予想される回答：神社 鳥居)

ヒント：これはカナダやアメリカで使われているピクトグラムです。
カナダやアメリカには神社や鳥居はありません。

答 え：ピクニックエリア、キャンプ場
公園などに置かれている木製のテーブルを表しているのです。

3

シミュレーションゲーム「バーンガ」を行う。

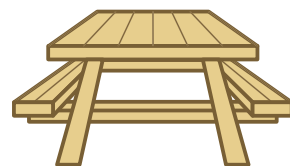
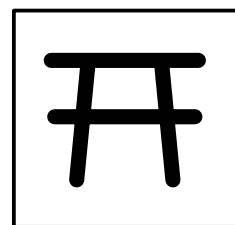
4

ワークシート①を記入後、各グループで感じたことや気づいたことを話し合う。

支 援 及 び 留 意 点

- ・見方を変えれば、物事が違って見えることがあることに気づかせる。
- ・文化が異なると、同じ絵を見ても異なるイメージを抱くことに気づかせる。

評 価 規 準



ゲームを体験して感じた不安は、日本にいる外国人の気持ちと同じであることに気づくことができる。

【技 能】

- ・無言でゲームを行わせる。
- ・資料②、資料③を参考にゲームの説明をする。
- ・実際の生活の中で、「バーンガ」で体験したような気持ちになるのは、どんな時か考えさせる。

「バーンガ」とは・・・

- ・トランプを使った、異文化理解を目的とした疑似体験ゲームです。
- ・無言で行うことがルールです。(ジェスチャーは可)
- ・グループごとに異なるルールでゲームを行い、一定時間後、メンバーが入れ替わることで異文化にふれた時の気持ちを考えるものです。



【1】資料②

基本ルール

・・・・・・・・・・(5、6人のグループ)

- ① 親が、トランプカードを全員に同じ枚数ずつ配る。
※ジャンケンで親を決める。(2回目以降は、勝った人が親)
- ② 1枚ずつ順番にカードを出す。
- ③ 制限時間がきたらゲームを終了する。
- ④ 最初にカードがなくなった人が勝ちとする。(カードの少ない順に2位、3位・・・)
カードを出す順・・・・・・・・・・親から順に時計回り
出せるカード・・・・・・・・・・同じマークで前の人が出したカードより大きい数字
いつでも出せるカード・・・・・・・・・・ジョーカー
出せるカードがないとき・・・・・・・・・・パス(何回でも)
カードの強さ・・・・・・・・・・ $2 < 3 < 4 < \dots < A < \text{ジョーカー}$
自分以外が全員パスのとき・・・・・・・・・・次のカードを1枚出す。(どのマーク、数字でもOK)



すすめ方

- 1 ゲームの練習
 - ① 「基本ルール」の説明を聞く。
 - ② 練習ゲームを行う。(話をしてもよい)
- 2 ゲームの開始(ここからは、無言で)
 - ① 各グループに「異なるルール」を配る。(次ページの「グループ別の異なるルール例」参照)
 - ② ルールを黙読する。(「異なるルール」を回収)
 - ③ 無言でゲームを行う。(ジェスチャーは可)
 - ④ 「ストップ」の合図でゲームを終了する。
 - ⑤ 順位を記録する。
- 3 メンバーの移動
 - ・上位1名→1つ上の番号のグループへ移動する。(例:3班は4班へ 最終班は1班へ)
 - ・下位1名→1つ下の番号のグループへ移動する。(例:3班は2班へ 1班は最終班へ)
- 4 ゲームの再開
 - ・新たなメンバーでゲームを始める。

【1】資料③

「グループ別の異なるルール例」

- A** ・出せるカード・・・同じマークかクローバー
・カードの強さ・・・13<12<11<…A<ジョーカー
- B** ・出せるカード・・・同じマークかダイヤ
・カードの強さ・・・A<2<3<…13<ジョーカー
- C** ・出せるカード・・・同じマーク
・カードの強さ・・・13<12<11<…A<ジョーカー
- D** ・出せるカード・・・同じマークかハート
・カードの強さ・・・13<12<11<…A<ジョーカー
- E** ・出せるカード・・・同じマーク
・カードの強さ・・・ジョーカー<13<12<11<…A
- F** ・出せるカード・・・同じマークかスペード
・カードの強さ・・・A<2<3<…13<ジョーカー

【1】ワークシート①

「“バーンガ”を体験して」

()組()番名前()

★自分に当てはまるものに○をつけましょう。

他のグループに移った() 他のグループの人を受け入れた()

- 1 他のグループに移って、ゲームをしている時の気持ちはどうでしたか。
- 2 他のグループからの人を受け入れて、ゲームをしている時の気持ちはどうでしたか。
- 3 このゲームで、一番苦労した場面、意志が伝わらなかった場面はどんな時でしたか。
- 4 このゲームで体験したような気持ちになるのは、実際の生活の中でどんな場面ですか。

第2次 外国人の人権問題を知ろう

目 標

- 日本に住む外国人には様々な立場の人がいることや、その人たちが抱える問題について理解する。(単元目標 1)

準 備 物

- ・ ビデオ「ソーテサワサワ～人間の価値はみな同じ～」(企画:長野県同和教育推進協議会)
- ・ 資料④「和歌山に住んでいる人々のつぶやき…」(『気づく・学ぶ・広げる 人権学習』P85)

展 開 [2]

学 習 活 動

1

資料④を読み、それぞれどんな人なのか考え、発表する。

2

ビデオ「ソーテサワサワ～人間の価値はみな同じ～」を見る。

3

場面に沿って、その時の主人公の気持ちや行動を振り返り、発表する。

支 援 及 び 留 意 点

・ 外国人の問題が、身近な問題であることに気づかせる。

・ 主人公が様々な体験をし、その時にできることを行動に移すことで、差別や不条理に立ち向かっていることに気づかせる。

・ 偏見や無知などがももて差別が引き起こされることがあることを伝える。

・ 考えさせたい4つの場面については、あらかじめ短冊に書き、黒板に掲示する。

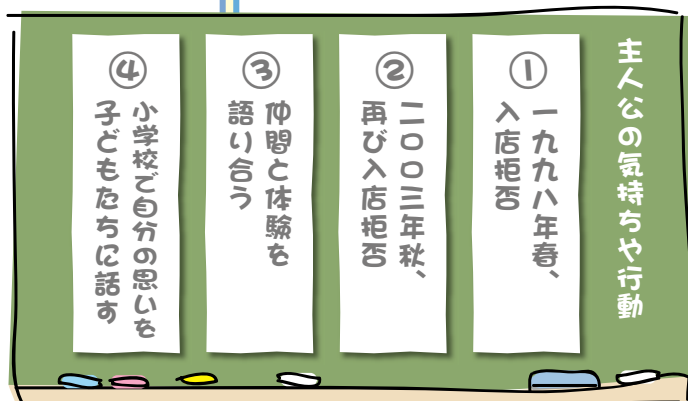
評 価 規 準

外国人の悩みや問題を理解している。

【知 識】

ステレオタイプや偏見、無知が差別につながることを理解している。

【知 識】





ビデオの内容「ソーテサワサワ～人間の価値はみな同じ～」

言葉も文化も異なる日本で暮らすタンザニア出身のフィデアさんが外国人排除に対し「私たちみな同じ」という願いを込めて語る。

「ジャンボー。私は小林フィデアです。タンザニアから参りました。」強く輝く太陽に育まれた、陽気で明るい性格のフィデアさん。青年海外協力隊員だった一成さんと出会い、結婚、長野県の三水村で暮らし始めて7年。一緒に生活する中で受け入れていった人々と、一方で外国出身というだけでフィデアさんを排除した人々。「シーシー・ソーテ・サワサワ... 私たちみな同じ。みないっしょ」フィデアさんは、私たち日本人へ、そしてこの世のすべての人々へ願いを込めてこう語る。

出典：信越放送株式会社 ビデオ解説文



ポイント

■「ソーテサワサワ～人間の価値はみな同じ～」は和歌山県視聴覚ライブラリーで借りることができます。

和歌山県立図書館 2階

〒641-0051 和歌山市西高松 1-7-38

TEL：073-436-9530 FAX：073-436-9531

外国人の人権をテーマとしたビデオ例

	作品名	製作年度	時間
1	トモダチ	H12	30分
2	夢の箱	H12	50分
3	風と大地と梨の木と	H14	51分



第3次 まちづくりの提案をしよう

目 標

- 日本に住む外国人の人権問題について認識を深める。(単元目標 1)
- 誰にとっても住みやすい、よりよい地域づくりをめざして、仲間と共に取り組もうとする態度を育む。(単元目標 3)

展 開 【3】

学 習 活 動

1

ALT や近くに住む外国人にインタビューをして、困っていることや願いを知る。

2

グループごとに調査項目を決め、自分たちの地域の現状を調査する。

3

グループで誰もが住みやすい地域づくりのために自分たちができることを話し合う。

4

グループで可能な方法を考え、提案する。

支 援 及 び 留 意 点

・ゲストティーチャーを招き、生活していく上で困っている点を話してもらうようにする。

例：・言葉の問題

- ・アパートを借りにくい。
- ・じろじろ見られる。
- ・働く場所がない。



・提案の例：
人権学習会の開催（自分たちが学習したことを地域の人にも聞いていただく。）

評 価 規 準

身近な外国人の抱える問題について積極的に知ろうとしている。

【価値 態度】

調査したことを吟味・分析し、新たな活動に生かすことができる。

【技 能】

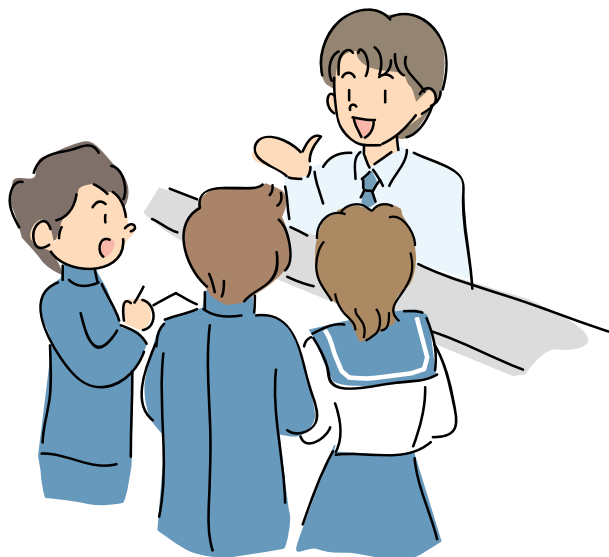
自分たちの地域に存在する課題解決のために、できることを考えようとしている。

【価値 態度】



調査項目の例

- ・ 外国語のメニューがある店、外国語を話す店員のいる店。
- ・ 各種手続き（電気・水道・ガス）には、外国語の案内があるか。
- ・ 市役所などの公共サービス窓口には、外国語の案内があるか。
- ・ 学校では、日本語のわからない生徒のためにどのようなサポートができるか。
- ・ 外国人同士が交流したり、情報交換したりする場があるか。
- ・ 外国人に知ってもらいたい、わが町の自慢。



ポイント

- ALT や近くに住む外国人の他にも、高校生の海外留学体験を聞いたり、行政機関等に聞きとりしたりするなど多様な調査が可能です。
- 外国人のための生活情報を知るために、下記の機関も利用できます。

和歌山県国際交流センター

〒 640-8319 和歌山県和歌山市手平 2-1-2 県民交流プラザ和歌山ビック愛 8F
TEL : 073-435-5240 FAX : 073-435-5243 E-mail : wa-world@wixas.or.jp

田辺国際交流協会

〒 646-0031 和歌山県田辺市湊 1619-8 田辺市民総合センター内
TEL & FAX : 0739-26-5997 E-Mail : ties@aikis.or.jp

- 住みよい地域づくりをめざして、中学生としての参加・参画の方法を考えさせましょう。（例：文化祭や学校開放週間での発表、行政機関等への訪問、ポスター作りなどによる地域への啓発、生徒会活動をととしての発信など）
- 発展的な学習として、積極的に活動を広げていくよう支援しましょう。